

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第六主日礼拝のしおり

2021年7月4日

前奏：

招きのことば：詩編 125 編 1-2, 4-5 節

【都に上る歌】主に依り頼む人は、シオンの山。揺らぐことなく、とこしえに座る。
山々はエルサレムを囲み 主は御自分の民を囲んでいてくださる 今も、そしてとこしえに。
主よ、良い人、心のまっすぐな人を 幸せにしてください。
よこしまな自分の道にそれて行く者を 主よ、悪を行う者と共に追い払ってください。
イスラエルの上に平和がありますように。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

み言葉の部

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまわり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、あなたの御言葉をいただいて一週間を始めます。あなたは御言葉によって私たちに信仰を与え、強めてくださいます。聖餐の恵みにあずかり、あなたの赦しをいただき、新たにいのちをいただきます。ここから私たちの新しい一週の歩みが始まります。

あなたは御言葉を聞く私たちをここから送り出してくださいますが、あなたはまた私たちの日々の生活の現場に来てくださって私たちを導き支えてくださいます。日常生活の中でこそあなたは私たちを導き、あらゆる災いから守り、隣人の力になるように鍛え用いてくださいます。新型コロナ・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：コリントの信徒への第2の手紙 12章 2-10節

わたしは、キリストに結ばれていた一人の人を知っていますが、その人は十四年前、第三の天にまで引き上げられたのです。体のままか、体を離れてかは知りません。神がご存じです。わたしはそのような人を知っています。体のままか、体を離れてかは知りません。神がご存じです。彼は楽園にまで引き上げられ、人が口にするのを許されない、言い表しえない言葉を耳にしたのです。このような人のことをわたしは誇りましょう。しかし、自分自身については、弱さ以外には誇るつもりはありません。仮にわたしが誇る気になったとしても、真実を語るのだから、愚か者にはならないでしょう。だが、誇るまい。わたしのことを見たり、わたしから話を聞いたりする以上に、わたしを過大評価する人がいるかもしれないし、また、あの啓示された事があまりにもすばらしいからです。それで、そのために思い上がることのないようにと、わたしの身に一つのとげが与えられました。それは、思い上がらないように、わたしを痛めつけるために、サタンから送られた使いです。この使いについて、離れ去らせてくださるよう、わたしは三度主に願いました。すると主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と言われました。だから、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです。

福音書朗読：マルコによる福音書 6章 1-13節

イエスはそこを去って故郷にお帰りになったが、弟子たちも従った。安息日になったので、イエスは会堂で教え始められた。多くの人々はそれを聞いて、驚いて言った。「この人は、このようなことをどこから得たのだらう。この人が授かった知恵と、その手で行われるこのような奇跡はいったい何か。この人は、大工ではないか。マリアの息子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモ

ンの兄弟ではないか。姉妹たちは、ここで我々と一緒に住んでいるではないか。」このように、人々はイエスにつまずいた。イエスは、「預言者が敬われないのは、自分の故郷、親戚や家族の間だけである」と言われた。そこでは、ごくわずかの病人に手を置いていやされただけで、そのほかは何も奇跡を行うことがおできにならなかった。そして、人々の不信仰に驚かれた。それから、イエスは付近の村を巡り歩いてお教えになった。そして、十二人を呼び寄せ、二人ずつ組にして遣わすことにされた。その際、汚れた霊に対する権能を受け、旅には杖一本のほか何も持たず、パンも、袋も、また帯の中に金も持たず、ただ履物は履くように、そして「下着は二枚着てはならない」と命じられた。また、こうも言われた。「どこでも、ある家に入ったら、その土地から旅立つときまで、その家にとどまりなさい。しかし、あなたがたを迎え入れず、あなたがたに耳を傾けようともしない所があったら、そこを出ていくとき、彼らへの証しとして足の裏の埃を払い落としなさい。」十二人は出かけて行って、悔い改めさせるために宣教した。そして、多くの悪霊を追い出し、油を塗って多くの病人をいやした。

讚美歌：217番

1. 天(あま)つ真清水(ましみず) 流れきて あまねく世をぞうるおせる
長く渴きし 我が魂も 汲みて命に 帰りけり
2. 天(あま)つ真清水(ましみず) 飲むままに 渴きをしらぬ 身となりぬ
つきぬ恵みは 心のうちに 泉(いずみ)となりて 湧きあふる
3. 天(あま)つ真清水(ましみず) 受けずして 罪に枯れたる ひとくさの
さかえの花は いかで咲くべき 注げ命の 真清水(ましみず)を **アーメン**

説教：「悔い改めさせるために」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様はよく安息日に教会堂で教えられました。マルコによる福音書はイエス様の公のご生涯のはじまりから記されています。バプテスマのヨハネから洗礼を受け、荒野で誘惑を受けて、弟子たちを集め、そして、安息日に教会堂で教えておられます。お話を聞いて人々は権威ある教えだ、と驚きました。旧約聖書の「救い主が来られる」という預言の知識を語るのではなく、その預言はご自分のことである、と言われたからでしょう。神の国が近づいた、悔い改めて福音を信じなさい、と言われましたが、それはご自分が来られたことで神の国が来たということ、だから方向転換をしてイエス様を信頼するように、というメッセージでした。

イエス様は故郷に帰られたとき、同じように安息日に教会堂で教えました。そこでもイエス様の語ること、なされることに接して人々は、その知恵や奇跡の力はどこで得たのだ、と驚きました。しかし、そのあとの反応が違います。公の生涯に入るまでのイエス様を知っている故郷の

人々ですから「この人は大工ではないか、マリヤの息子だ、兄弟姉妹たちは私たちと一緒に住んでいるぞ」と、イエス様の救い主としての権威を受け入れることができませんでした。聖書には、「イエス様につまづいた」と記されています。小石につまづいて体のバランスを失うように、幼い時からおなじみのイエス様が救い主だなんて、どうなっているのか、と感じて、前に進めなくなってしまったのです。それを不信仰、と聖書は呼んでいて、そこではイエス様は、他の場所でのようなみわざをすることはわずかしかできませんでした。

なぜ人々はつまづいたのか、という理由はいろいろあると思いますが、ひとつはイエス様への先入観なのでしょう。この人は大工ではないか、お父さんのヨセフも知っているぞ、お母さんが子どもたちを育てたマリヤだ、そのイエス様がなぜ救い主なのだ、という戸惑いです。

ピリピ人への手紙2章6節から読みますと、イエス様は神の御子であるのに、神と等しいものであることに固執せずかえって自分を無にして、しもべの身分になって人間と同じ者になったばかりか、人間としてへりくだって死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順に歩まれたとあります。イエス様は聖霊によって身ごもったマリヤから罪のない者として生まれ、公の生涯に入られるまで愛をもって正しく仕事をして家庭を支えました。古郷ナザレの人々が自分たちの身内だと思ったほど、村の一員として暮らしたのです。イエス様は神様でいらっしゃるのに、私たち人間の一員となって、矛盾や葛藤や苦しみを経験してくださいました。ですからこそ私たちのことを体験的にわかってくださいます。イエス様は罪をおかされませんでした。ですから死ぬことはなかったのですが、神様の御前に罪びとである私たちの身代わりになって私たちの罪の罰を受けて十字架で死んでくださいました。罪の赦しを信じる者に洗礼を通して与えてくださいます。三日目によみがえって罪と死と悪魔の力を滅ぼして下さり、復活の新しい命を信じる者に洗礼を通して与えてくださいます。聖餐式でいただくパンとぶどう酒を通して私たちは私たちを大切に思って私たちのために苦しんで下さり、今も生きてすべてをすべ治めておられるイエス様のまことの体とまことの血にあずかります。そのようにして私たちはまことの神様であり、まことの人となってくださった救い主イエス様の赦しと命に預かって、神の子とされます。これが、イエス様があなたの救い主です、という聖書のメッセージです。

しかし多くの人は戸惑うのではないのでしょうか。イエス様は歴史上の人間です。そのイエス様が立派な人生を送って神様のようになったのではありません。聖書は、もともと神様であったイエス様が、私たちのために罪なくして人として世に生まれ、きよい生涯を全うし、さらにその死が私たちの罪の身代わりだったと言うのです。これは一体どういうことなのか、と戸惑うのが普通ではないのでしょうか。聖書は、正しい人生を送りなさい、と教える書ではなく、救い主イエス様を信じなさい、と招く本です。これは生まれながらの私たちにはよくわからないことです。そして私たちもその意味で不信仰で、イエス様につまずくのです。ナザレの人々のことが少し身近に感じられます。

イエス様を信じる信仰はどのようにして身につくのでしょうか。イエス様につまずいている人々は、自分でその思いを乗り越えて、自分の思い込みを克服して、自分の方からイエス様に近づいて、何とか少しずつでもイエス様を信じることができるようにと努力を重ねていくのでしょうか。そうではありません。イエス様の御言葉を聞くことです。

故郷で多くの方がイエス様に躓きました。そのあとイエス様は何をなさったのでしょうか。そのあとも、イエス様は「神の国は近づいた、悔い改めて福音を信じなさい」と語り続けます。故郷の近くの村をご自分で巡り歩いて教えます。さらに、弟子たちを呼び寄せて二人一組にして宣教に送り出しました。弟子たちにこまかく教え、汚れた霊を追い出す権能をさずけて、人々が悔い改めて福音を信じるように遣わされました。

イエス様を信じる信仰は私たちがイエス様の言葉を聞くことによって与えられます。イエス様の言葉を聞くとき、イエス様の言葉の権威によって、私たちの内側にイエス様を信じる信仰の火がともされます。イエス様は神様なのに私のために人になってくださって、私のために苦しんでよい生涯を愛をもって生きてくださり、私のために十字架で罪の裁きを受けてくださり、私のために死に打ち勝ってよみがえってくださったことを信じる信仰を、聖霊が御言葉を通して私たちに灯してくださいます。私たちは不信仰を悔い改め、イエス様という福音に方向を向きなおして信頼します。聖霊は洗礼を通してイエス様を私たちに着せてくださり、イエス様のなさったことと私のしてきたことを交換してくださって、私たちを神の子としてくださいます。神の子はイエス様の体と血にあずかる聖餐で強められ、イエス様とともに正しく愛をもって歩みます。

自分で信仰を紡ぎだすことはできません。信仰が弱いな、と思ったら神様の御言葉の語られるところで新たにされます。自分で信仰を強めることはできません。御言葉と、洗礼や聖餐という聖礼典によって、聖霊は私たちのイエス様を信頼する信仰を強めてくださいます。御言葉をはなれてあれこれ思いめぐらすのではなく、イエス様の御言葉を聞きましょう。イエス様がしてくださったことを、私のためであった、と感謝して、信頼し、命をあずけ、その土台の上に毎日の歩みを立て上げていく神の子としての生涯を、神様があなたに贈り物として与えてくださいます。ローマ人への手紙 10 章 17 節に「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです」とある通りです。

そうでしたら、私たちは今週、家族の人やお友達にイエス様のことを信じるようにと知力を用いて説得しなくてもよいのです。むしろ、あなたが御言葉を聞いて、神様がつくってくださった信仰に正直に生きるのです。家庭でもお友達といるときも仕事をしているときも、神様を愛し、隣人を大切にするのでですね。また、あなたを生かしている御言葉を分かち合うのです。そして御言葉の語られるところにお誘いするので。あなたに聖霊様が御言葉を通して信仰をつくり強めてくださるよう、聖霊様は人間の知力や努力ではなく神様の御言葉を用いて、神様の御心のままに聞いた方々の内に、悔い改めて福音を信じる信仰を与えてくださいます。

「十二人は出かけて行って、悔い改めさせるために宣教した。そして、多くの悪霊を追い出し、油を塗って多くの病人をいやした。」マルコ 6:13

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

聖餐の部

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあって我らはひとつ。

※マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い 主の復活をたたえ 主のみ国を待ち望み 主にあって我らは生きる。※

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン。

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。アーメン

配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番

赦しの宣言

主イエス・キリストのまことの体と、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠の命に至らせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。アーメン

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え 主の御言葉に従い 愛の息吹に満たされ 主にあって我らは歩む。 ※

讚美歌：249番 献金 献金感謝の祈り

1. われ罪びとの 頭(かしら)なれども、主はわがために 生命(いのち)を捨てて
つきぬ命(いのち)を 与えたまえり
2. 天(あま)つ御国(みくに)の 民とならしめ、幹に連なる 小枝のごとく
ただ主によりて 活かしたまえり
3. 妙(たえ)にも尊き み慈(いつく)しみや、求めず知らず 過ぎしうちに
主はまず我を 認めたまえり
4. 思えばかかる 罪びと 我を 探し求めて 救いたまいし 主のみ恵みは 限りなきかな
アーメン

頌栄：讚美歌 543番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏